



# ブランドの確立

挑戦する人  
Challenger

# 宮城島 俊之氏

株式会社 エムアイモルデ  
代表取締役

## COMPANY PROFILE

株式会社 エムアイモルデ  
所在地：静岡県富士市比奈 292-1  
TEL：0545-38-1142 IP 電話：050-5514-4230  
FAX：0545-34-1795  
担当者：代表取締役 宮城島 俊之  
事業内容：自動車用中型、小型主体の射出成形用金型設計、製作  
エミダス会社・工場詳細情報：http://www.nc-net.or.jp/emidas/gaiyou.php?63719  
※「エミダス工場検索」のキーワード検索「エムアイモルデ」で検索できます。



①メッシュ形状  
メタルネットの樹脂化  
メタルメッシュ形状を INJ 成形品にて再現



②パンチング形状  
メタルパンチングの樹脂化

（数多くの社内実績に裏付けられた加工技術）

射出成形金型メーカー、エムアイモルデ代表取締役社長・宮城島俊之の半生は、家業の呪縛を断ち切ることは出来なかった。2世、3世経営者の多くがそうであるように宮城島も与えられたレールに乗ることを否定した。

型屋を継ぐのは嫌だった。父、逸男（現会長）にも「継がない」と断言した。しかし、宮城島がエムアイモルデを継ぐことは水が流れるがごとく必然のことだった。小学校から大学までつづけた剣道を通じて、継続することの大切さを自然に学んでいた。

大学に入學すると宮城島はアルバイトに精を出した。まずパチンコ店でバイトをはじめた。バイクが欲しかった。半年で80万円を貯めHONDA NC30を購入した。大学3～4年にかけてはバーテンダーのバイトに就いた。この仕事で、つくることの面白さを学んだ。ギムレット、マティニーといったスタンダードなカクテルほどつくるのが難しい。シェーカーで振ったカクテルがグラスに広がり、最後の一滴でグラスの縁いっぱいまでを覆う。

そうして、宮城島がバーカウンターに立つことでもうひとつ学んだのが人脈づくりと人間観察力である。

大学卒業後は、同業の型屋であるベッカー精工に入社した。この時もまだエムアイモルデを継ぐことには否定的であった。

しかし、父親に促されるまま、とりあえず父の知人の金型屋に就職したのである。仕事はおもしろかった。しかし父親の敷いたレールに乗るのは嫌だった。

24歳の時、父親にはつきりと「型屋は継がない」と明言した。しかし、そう啖呵を切ったことで宮城島のなかにあったモヤモヤとしたものがすべて吹き飛んだ。

数カ月後、父親にあらためて意思を伝えられた後、母親に三つ指について「（会社を）よろしく願います」と言われ、宮城島の確固たる決意が変わった。

以前から父親と約束していた米留留学の後にエムアイモルデに入社することになった。留学時に知り合ったサーファーに、波乗りの極意を聞くと「毎日、海に入るこただけだ」と教えられた。この言葉は、宮城島が剣道時代から学んだ継続の大切さに通じた。

入社後、3年間は設計、その後、営業を経験し、34歳で社長に就任した。

現在は、射出成形金型のなかでもメッシュ金型に特徴を持つ金型メーカー、エムアイモルデのブランドをつくりつつある。「キャリアも経験もないけれど、人脈と感謝する人は多い」と宮城島は言う。

「継続は力なり」—— 剣道、サーフィンを通じて学んだ力を経営という土壌で発揮する宮城島の未来は明るい。

NCネットワーク／内原康雄